



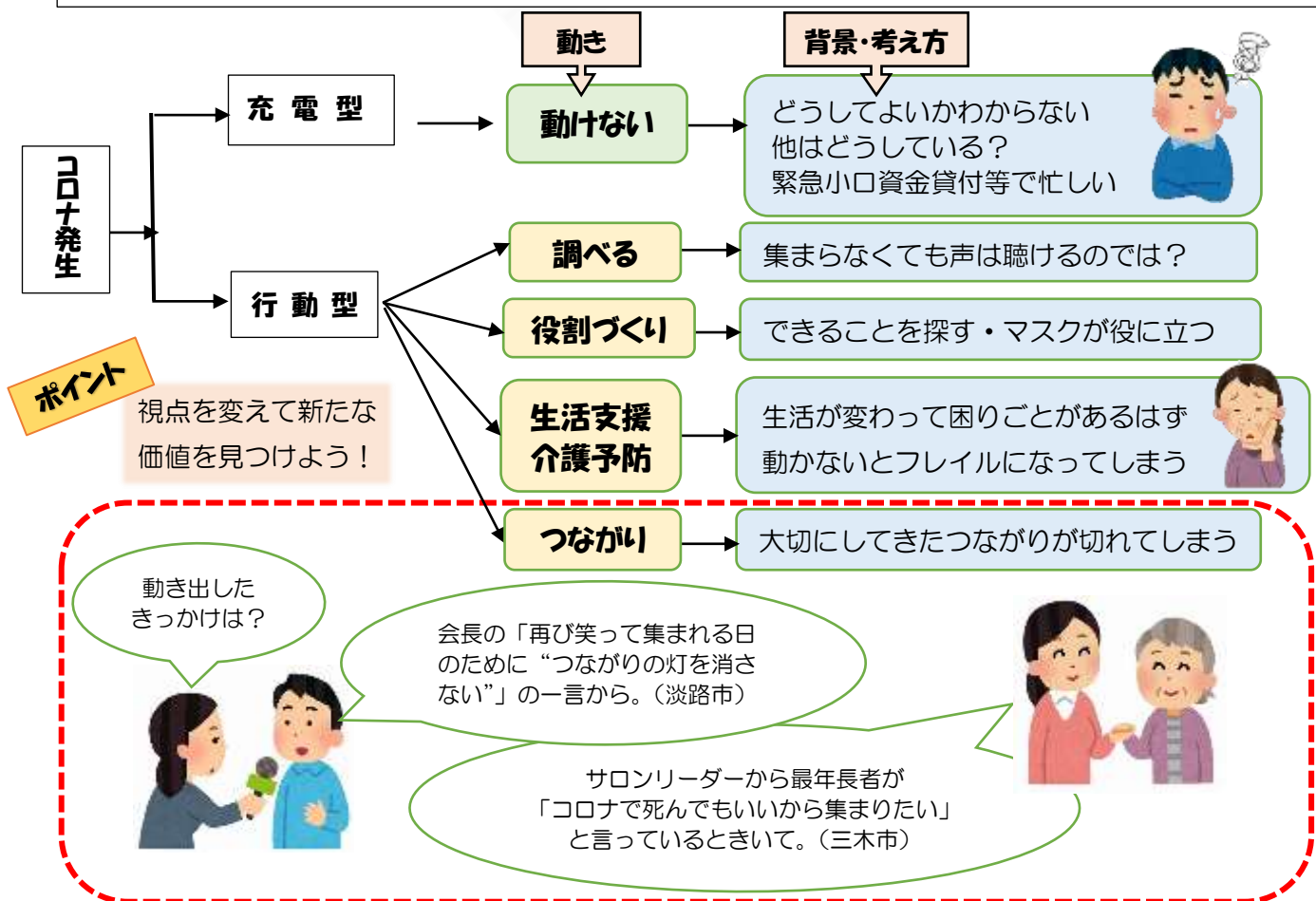
(縁・円・援)

兵庫えんだより

いつか戻れる。その時に向かって進んでいこう！

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

兵庫県社協では、新型コロナウイルス感染症が広がる中で、その影響と対応について、4月中に県内の生活支援コーディネーター等にヒアリングしました。その結果、地域活動はほとんど中止になりましたが、地域活動者や生活支援コーディネーターからは、戸惑いと不安を抱えており、下記のような動きが見えてきました。



※この「兵庫えんだより」は、地域の活動者や生活支援コーディネーター等の職員で共有し、活動の一助にしてください。そして、新たな実践がありましたら教えてください。

【発行元】(令和2年5月8日発行)

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

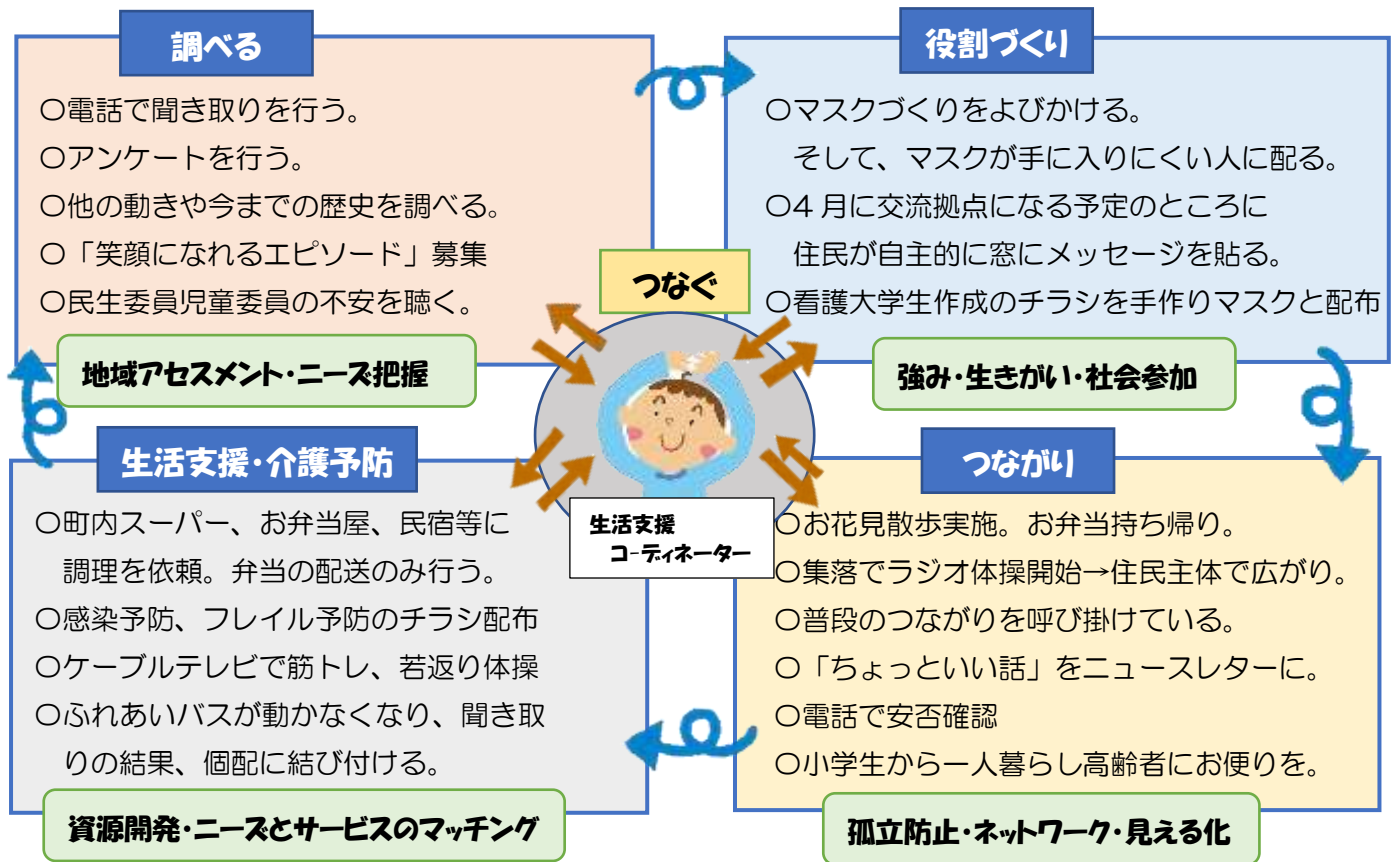
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当: 山下・永坂)

コロナに負けない！県内社協の取り組み

県内の生活支援コーディネーターや地域活動者が、つながりを切らないために「今できることをしよう！」と動き出したところがあります。みなさんの地域に合わせて参考にしてください。



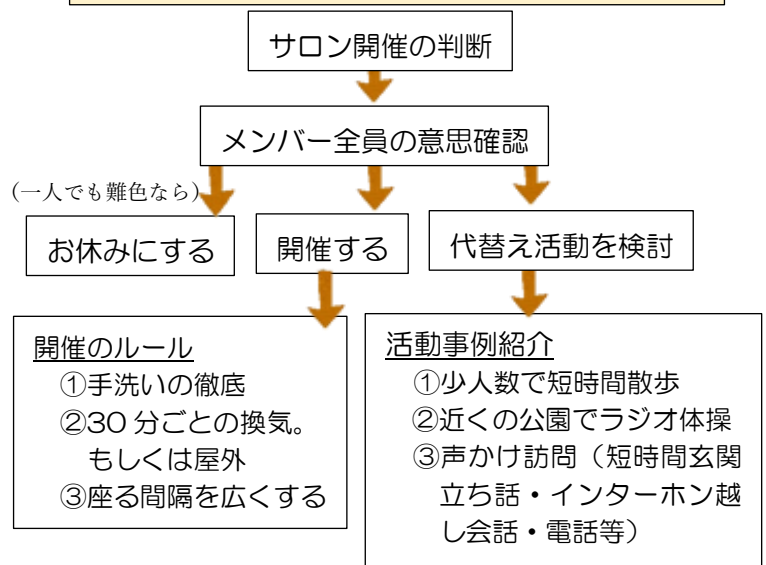
活動紹介：みんなで考える

三木市社協の坂本さんに聞きました。(4月6日)
 「3月からサロンは中止になり、楽しみにしていた花見は距離をとって桜を見ながら会場まで歩いてお弁当は持って帰る「花見散歩」にしました。ある日、サロンリーダーから連絡があり「最高齢のサロン利用者から「コロナで死んでもいいからサロンをやってほしい」と言われたことから、電話で参加者に確認すると休止前より希望者が増え、ならば「散歩にしよう！」と手作りマスクを渡しながら間隔をあけて歩きました。生活支援コーディネーターとしては、やるなら支援を行う。迷っているなら話し合う。集まるだけでなく、みんなで考えることが、先を見越すと住民育成につながる。住民が考えてできないところと一緒に考え支援する。これらの活動は災害時の対応につながる、と思っています。」

ポイント

- ・みんなで考えることで新たな力になる。
- ・判断材料は先を見通し考えるきっかけ。

自粛解除後のサロン開催の判断(4月14日作成)



【編集後記】「兵庫えんだより」の「えん」は、つながりをまるい円のようにつなぐ支援ができますようにと願いを込め命名しました。つながっています。あきらめないで進んでいきましょう。(N記)